

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：62618

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13457

研究課題名(和文) 会話における対人関係の実証的研究：自然会話データを用いて

研究課題名(英文) Research of Interpersonal Relationship in Conversation Using Natural Conversation Data

研究代表者

臼田 泰如 (Usuda, Yasuyuki)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・音声言語研究領域・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：80780501

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、会話における参加者の行為と、会話の場において変動する参加者同士の関係(局所的関係)との関連を明らかにすること、および局所的な関係と長期的な関係性(大域的関係)との関連を明らかにすること、の2点であった。大域的関係が行為に及ぼす影響については知見の蓄積があるが、局所関係と行為の関連および局所関係と大域的関係の関連については十分には研究されてきていない。そのため、実際になされた会話のデータを用いて、上記の2点の問題について研究を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで研究の蓄積のなかった会話における参加者の行為と、会話の場において変動する参加者同士の関係(局所関係)との関連を明らかにした。またその際、実際に行われた会話データを使用したことで、現実の会話に即した実証的研究がなされた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study were examining the relation between the actions of participants in conversation and the local relationship which is floating in conversation among participants and the relation between local relationship and global relationship which is stable longitudinally. Many studies have been done on the effect of the global relationship to the actions, but few studies have examined the relation between the action and local relationship and between local and global data relationship. Therefore, this study examined the two problem using natural conversation data.

研究分野：語用論，会話分析

キーワード：会話

## 1. 研究開始当初の背景

これまで社会言語学や社会心理学などにおいて、社会的地位や年齢などといった人口学的変数や、公的な関係による役割関係などに基づく比較的安定した関係が参与者の行為にどう影響するかについての知見は多く蓄積されてきた。しかしながら、会話を理解する上では、その時々  
の行為によって変動する局所的な関係も視野に入れる必要がある。こうした流動的な関係性については主に会話分析の領域で知見の蓄積があるが、認定の具体的方法は整備されておらず、定量的な分析は行われていない。また、そのような流動的な局所的関係が大域的關係にもたらす影響についても考えられることだが、これについての知見は管見の限り見られない。しかしながらコミュニケーションにおいては、そこでは単に情報の伝達が行われるだけではなく、その場を快適に作り上げる(局所的関係)ことや、より長期的な関係を良好に保つ(大域的關係)ことも、参与者にとって重要な課題となる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の背景を踏まえて、実際になされた会話のデータを用いて、行為と局所的關係のアノテーションに基づく実証的・経験的研究を行うことである。コミュニケーションにおける関係性の重要さは広く認められていると考えられるが、実際に行われた会話のデータに基づく経験的・実証的研究は十分とはいえない。本研究はこの点について、具体的方法を提案し、行為と関係の研究基盤を築くものである。また研究者のみならず、多くの場面でコミュニケーションの実践に関する関心が高まっている。本研究の意義は、こうした関心に学術的な方法で応じるひとつの可能性を提示することにもあるといえる。

## 3. 研究の方法

本研究で用いるデータは、研究代表者が過去に収録した会話データと、国立国語研究所で構築中の『日本語日常会話コーパス』である。いずれも現実の環境で実際になされた会話の録画である。これらのデータに関係性についてのアノテーションを行うことと合わせて、会話分析の方法論によって会話の中で行われている行為や関係性について分析する。

会話分析とは、「人が日常生活の中で従事する多種多様な実践的諸活動-----会話、会議、診察、面接、ゲーム、授業、接客等々-----を構成する出来事や人びとの振る舞いが、いかにしてその場で常識的に合理的な理解可能性を備えるものとして成立しているか、この秩序を産出するための社会成員の「方法」(Garfinkel 1967)を、発話をはじめとする相互行為中の振る舞いの観察を通じて明らかにする」方法論である(平本 2018)。我々はやりとりを行いながら日常のさまざまな活動を行なっている。そうした活動の中のやりとりに用いられることばや身振りなどのふるまいは、すべてがそうではないにせよ、その活動を構成するひとつひとつの行為や活動全体を成り立たせるための参与者の指し手になっているものを含んでいる。会話分析が採用する分析方針は、どのようにしてそうしたふるまいが行為を構成する指し手になっているのかを明らかにすることである。

## 4. 研究成果

本研究の成果は以下のように公表された。2017年度には社会言語科学会(2018/3/10、東洋大学)においてポスター発表を行った。2018年度には『認知科学』25号3巻に論文「運転練習における運転操作と発話の連鎖の分析」が掲載されたほか、International Conference on Conversation Analysis (2018/7/15, Loughborough Univ.) および International Society for Gesture Studies 8th International Conferenceにおいて口頭発表を行ったほか、ヴァーバル・ノンヴァーバル研究会においてポスター発表を行った。2019年度には論文「TRPGにおける「ここ」: 仮想的秩序と現実世界の秩序との整合をめぐる断章」を収録した書籍『多元化するゲーム文化と社会』(ニューゲームズオーダー)が刊行されたほか、16th International Pragmatics Association (2019/7/11, Hong Kong Polytechnic Univ.) および日本語用論学会(2019/11/24, 京都外国語大学)において口頭発表を行った。

「運転練習における運転操作と発話の連鎖の分析」においては、マニュアルトランスミッション車の運転の練習をしている場面を収録したデータを用いて、運転練習という活動が運転機器の操作とそのときになされる発話とを整合しつつ成り立たせられていることを分析した。そのことが練習者と補助者との大域的關係に配慮した局所的關係の調整として、補助者と練習者は運転操作とそれぞれの発話とのタイミングを調整することで、練習者が運転する人としての資質を備えていることを公にする手続きになっていることを明らかにした。また、「TRPGにおける「ここ」: 仮想的秩序と現実世界の秩序との整合をめぐる断章」においては、テーブルトークロールプレイングゲームというタイプのアナログゲームにおいて、いかに現実には存在しない世界における現実には存在しない物体や人物などのものごとが、現実世界に生身の人間として存

在しやりとりしているプレイヤーの実際のふるまいに定位されるかということを論じた。TRPGにおいてしばしば聞かれる「ここ」についての発話は、現実には存在しない何か「ここ」にあるという設定にしていることをプレイヤー間で理解可能にする手続きであり、それらを通じてTRPGという遊びにおいてプレイヤー全員が認識の齟齬を解消しながら遊ぶということが可能になっていることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>白田 泰如  | 4. 巻<br>25            |
| 2. 論文標題<br>運転練習における運転操作と発話の連鎖の分析   | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>認知科学   | 6. 最初と最後の頁<br>338-349 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br><a href="https://doi.org/10.11225/jcss.25.338">https://doi.org/10.11225/jcss.25.338</a> | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yasuyuki Usuda  |
| 2. 発表標題<br>Mimetic performance in Japanese conversation: Its position, action & quotation marker |
| 3. 学会等名<br>5th International Conference on Conversation Analysis（国際学会）                           |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Yasuyuki Usuda  |
| 2. 発表標題<br>What enables miming in conversation? Mimetic performance and audiovisual performability |
| 3. 学会等名<br>International Society for Gesture Studies 8th International Conference（国際学会）            |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>白田 泰如                    |
| 2. 発表標題<br>相互行為における「みたいな」で終わる発話     |
| 3. 学会等名<br>ヴァーバル・ノンヴァーバル研究会第13回年次大会 |
| 4. 発表年<br>2019年                     |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Yasuyuki Usuda   |
| 2. 発表標題<br>Imitation in Conversation: From the Viewpoint of Conversation Analysis |
| 3. 学会等名<br>International Pragmatics Association (IPrA) (国際学会)                     |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>白田 泰如                 |
| 2. 発表標題<br>会話における演技による参与枠組みの組み替え |
| 3. 学会等名<br>社会言語科学会               |
| 4. 発表年<br>2017年                  |

〔図書〕 計1件

|                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>松井広志・井口貴紀・大石真澄・秦美香子 編 | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>ニューゲームズオーダー           | 5. 総ページ数<br>360 |
| 3. 書名<br>多元化するゲーム文化と社会          |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

|         |                           |                       |    |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織 | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|